

ニホンジカ問題の現状と対策の今後

「被害防除と個体数管理」 ～車の両輪を回すために～

近年、ニホンジカ生息数の増大と生息域の拡大が各地で進行し、その影響は農林業被害のみならず、植生衰退や土壌流失など生態系への悪影響も顕著となっており、四国においても森林・林業に深刻なダメージを与えています。一方で林業経営を取り巻く環境は厳しく、シカ対策の進まない現状に対して、ともすれば捕獲要求一辺倒に陥りがちな状況です。

しかし、これからの野生動物対策は、適切な技術の適用による被害防除(被害管理)と、効果的な捕獲法を取り入れた合理的・持続的な個体数管理を、車の両輪として機能させていかなければ展望は開けないと考えます。



そこで、本シンポジウムでは、四国におけるニホンジカ問題の現状について概略を報告した上で、まず、森林における必須の防除技術である防護柵の重要性と設置・管理について、次に、個体数管理のための新たな捕獲法と、今後、構築されるべき個体数管理の体制について、それぞれ一線の研究者にご講演いただいたのち、新たな捕獲法の試みや林業的防除技術との組み合わせによる防除試験、体制構築の取組などについて、森林総合研究所関西支所の若手研究員が報告をいたします。

最後に、ニホンジカ問題の現状と今後の対策についてコメンテーターと来場者も交えてディスカッションを行います。

四国におけるニホンジカ問題の過去、現在と未来

独立行政法人森林総合研究所四国支所
チーム長(野生動物害担当) 奥村 栄朗

本講演は、詳しくない方にもわかり易く、よくご承知の方には復習となるようなシカ問題の解説と状況報告にしたいと思います。

はじめにシカの生態の要点を解説し、つぎに自然的、社会的な背景とともに、生息動向と被害の歴史的な推移を概観し、さらに最近の生息調査結果や捕獲状況等について紹介します。

最後に、特に、今後の林業被害の懸念と、深刻化する森林生態系への悪影響についても言及します。

これからの狩猟と管理捕獲に求められるブレイクスルー

- 手法論から体制論への意識改革 -

国立大学法人岐阜大学応用生物科学部
共同獣医学科教授 鈴木 正嗣

近年、野生動物の生息数増加や被害の激化を踏まえ、生態学や野生動物管理学に立脚するプロフェッショナル従事型捕獲の必要性が指摘されています。また、たとえ同一の手法であっても、従事者の技量等により捕獲効率に大きな差が現れることも確認されつつあります。

そこで今回は、プロフェッショナル従事型捕獲の先行事例を紹介するとともに、これからの日本に求められる新たな捕獲体制の在り方について議論を深めたいと考えています。

野生動物保全における必須対策としての被害防除

- 森林における効果的な防護柵の設置と管理 -

国立大学法人京都大学大学院農学研究科
森林科学専攻講師 高柳 敦

最初に、ニホンジカを含む野生動物による被害問題に取り組む基本的な枠組みと被害防除の果たす役割について説明します。森林被害を防ぎたくても効果的な方法がないと考えておられる方も多いと思いますので、効果的な防鹿柵技術についても簡単に説明します。

そして、その技術を使って集水域を保全する集水域防護による保全の事例を紹介し、森林保全対策の選択肢としての防除技術について理解を深めて頂きたいと思います。

野生動物管理における今後の展望

- 被害防止と体制構築の取り組み -

独立行政法人森林総合研究所関西支所
生物多様性研究グループ 八代田 千鶴

野生動物管理のための捕獲技術に関する試行や実施事例について紹介するとともに、現在森林総研で実施中の新植地におけるパッチディフェンスの設置と管理捕獲を組み合わせた被害防止対策の実証研究について報告します。

また、森林管理体系の中にシカ管理を組み込んだ体制構築に向けた取り組みなど、今後の展望について言及したいと思います。